

会 議 録

会議の名称	令和元年度第2回行田市総合教育会議
開催日時	令和元年9月20日（金） 開会：午後1時30分　閉会：午後3時30分
開催場所	行田市産業文化会館　2階　2A会議室
出席者（委員） 氏名	石井直彦市長、鈴木トミ江教育長、岸田昌久委員、 鹿山高彦委員、大久保英子委員
欠席者（委員） 氏名	増田雅久委員
事務局	学校教育部：江利川学校教育部長、荻原学校教育課長、 諸貫教育総務課長、今成学校教育部副参事 生涯学習部：藤井生涯学習部長 健康福祉部：夏目健康福祉部長、五十嵐子ども未来課長、 上野子ども未来推進幹 総合政策部：畔上総合政策部長、菅原企画政策課長、 川上企画政策課主幹、渋澤企画政策課主任
会議内容	議事 （1）令和元年度学力・学習状況調査の結果と今後の学力向上施策 について （2）学校再編成について （3）その他
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 総合教育会議構成員名簿 ・ 資料1　全国・埼玉県学力・学習状況調査結果について ・ 資料2　「学力向上プラン」の推進 ・ 資料3　公立学校適正規模・適正配置の基本方針及び再編 成計画の進捗状況 ・（参考資料）　行田市教育大綱 ・（参考資料）　行田市総合教育会議設置要綱
その他必要 事項	傍聴者　2名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	1 開会 2 市長あいさつ 3 議事
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、次第の3「議事」に入る前に、会議の公開・非公開に関する取扱いについて確認させていただく。本日の会議は、議事の中で個人情報を取り扱う予定がないことから、原則公開とさせていただく。また、会議録の作成は要点筆記とし、委員名を明記の上、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて公開させていただく。 ・それでは、本日の「議事」に入る。進行については、要綱第4条第1項の規定により、会議の議長は市長が務めることとなっていることから、ここからは石井市長に議事の進行をお願いする。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、暫時、議長を務めさせていただく。はじめに、議事の（1）「令和元年度学力・学習状況調査の結果と今後の学力向上施策」について、事務局から説明をお願いする。
事 務 局	<p><資料1、資料2により説明></p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいま事務局から説明があったが、ご意見やご質問があればお願いします。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「学力の伸びの状況について」という折れ線グラフの資料があるが、この資料だけでは、各層の児童・生徒がどのくらいいるのか、どのくらいの数が上位層又は下位層へ動いたのか、量的な把握が難しい。 ・学力・学習状況調査の結果を見ると、中学校3年生の英語では、昨年度より数値が悪化しているにもかかわらず、折れ線グラフはいずれの層も右肩上がりを示しており分かりにくい。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフ間の幅が量を示しており、中学校3年生の英語では、中間層と上位75%層の間の幅が狭いことから、この近辺に生徒が集中していることが読み取れる。 ・数値が悪化したのは、上位25%層の学力レベルが伸び悩んだことが要因であると考えられる。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の取り組みのうち、E小学校では特別日課を設け、基礎学力の補充に力を入れることで大きな成果を挙げている。他の学校でも、授業時間の確保について何か対策を講じているか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・また、今年度はゴールデンウィーク期間が長く、その分の授業時間を長期休業期間を調整することにより確保したという事例も聞くが、行田市でも同様の取り組みについて検討しているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・補習の時間については、各学校で時間を捻出して対応している。中学校では、5時限授業を6時限目まで延ばすなどして、授業時間の確保を行っているところである。 ・長期休業期間の短縮については、他市町村の状況も注視しながら、今後研究していく。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・5時限目終了後の20分間の補習については、全校で行っているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・E小学校のみで取り組んでいる事例である。E小学校では、朝の時間を繰り上げて時間を捻出している。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・他市の事例を聞くと、短縮した長期休業期間中は給食が出ず、弁当を持参しており、保護者への負担も生じていると聞いた。 ・しかし、20分間の補習だけでこれほどの効果が表れているのだから、工夫して授業時間をこれまで以上に確保すれば、大きな効果が生まれるのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、給食回数は年間187～188回となっている。長期休業期間の短縮を検討するにあたり確認したところ、現在の給食費負担でも数回程度であれば増やすことは可能であるとの判断に至ったところである。実施する際には、保護者負担をなるべく増やさない方向で対応していきたい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・現在でも、学校によっては夏休み期間中にサマースクールを開催していると思うが、教育委員会からの指示によって開催しているものなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・サマースクールについては、各学校の判断により開催している。実施期間も7月下旬や8月下旬、内容もプリント中心や補習授業中心など、学校によって様々である。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学校でも、事業の実施にあたっては様々な工夫をして取り組まれている。市として学力向上を目指すにあたり、各学校での取り組みを効果の大小でまとめたり、整理・分析する必要がある。 ・A小学校でのより多くの問題を解かせる取り組みや、B小学校で

	<p>の学級経営、落ち着いた授業の実施、C小学校での子どもたちに自己肯定感を持たせる工夫など、他校にも波及させれば効果が大きいものも数多くあると感じた。</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校での取り組みをまとめた資料はあるのか。取り急ぎまとめて報告し、各学校での取り組みに活用してほしい。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の学力向上推進委員会の場において、資料として提示させていただいたが、分析までは踏み込めていなかった。 ・現在、昨年度の実施状況とその成果を各学校に対し分析の上、報告を求めているところである。資料については、なるべく早くまとめて提示させていただく。
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境や居心地の良さは、学力に直接的に結びつく。ある学級の行っている特色的な取り組みをまずは学校内で実践し、効果が見込めるものについては市内の全学校に波及させ、良い効果を生み出していきたい。 ・また、児童・生徒への働きかけはもちろんであるが、今後は教職員へのサポートも充実させ、指導する立場の先生方の能力向上も図っていかなければならない。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・C小学校で行われている習熟度別の授業について、クラス分けの基準について教えてもらいたい。 ・また、D小学校での新聞を活用した活動や、E小学校でのパワーアップ日課などは、それぞれ大変大きな成果を挙げている。学校規模の問題もあるが、こうした取り組みは他校にも応用できるものではないか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別の授業については、ぐんぐんタイムという補習を行う中で、基礎的な問題に重点を置くクラスやより難解な問題を解くクラスに分け行っている。 ・D小学校については、もともとの伸びしろが大きい中で、他校の工夫事例を積極的に取り入れて成果が挙げたものと認識している。E小学校については、積極的に学習に向かう集団形成が図られており、落ち着いた学習環境と指導力のある先生との相乗効果により、大きな効果があったものと認識している。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を持った児童・生徒の中には、英単語自体を覚えることは苦手だが、英語の歌などを通じて英単語、文法等の学習やリスニング力を習得することは可能であると聞く。様々な視点を踏まえて、

	効果的な英語教育を導入してもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは英語の歌や体を使った遊びなど、英語活動には非常に熱心に取り組んでいる。英語の教科化にあたり、英語の教科書にも歌などの体験科目があることから、これまでの行田市での英語教育の工夫を活かし、子どもたちが積極的に向き合えるような英語教育に取り組んでいく。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> 特に英語については、小学校から中学校への接続が今後の大きな課題であると認識している。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上を目指すにあたっては、教育委員会だけで考えるのではなく、市全体として取り組んでいくことが必要なのではないかと考えている。 また、家庭環境の安定や市民の学習に対する意識の向上も必要になる。教育の分野、福祉の分野、様々な分野から市民の安心・安全確保に取り組んでいくことが学力向上につながっていくものだと考えている。
議長	<ul style="list-style-type: none"> せっかく多くの皆さんに参加いただいているのだから、皆さんから忌憚のない意見を出してもらいたい。 特に、新しい施策や取り組みについて積極的に議論してほしい。子どもたちの未来のためにも、現状を変えなければならないという強い意識を全庁的に共有していく必要がある。 現状を打破するためには何が重要かという観点から、皆さんが子どもたちに何ができるか、どんな思いを抱いているかを聞かせてほしい。
夏目健康福祉部長	<ul style="list-style-type: none"> 現在、市の福祉施策の一環として、低所得者世帯を対象に週一回の学習補助を行っている。こうした場では、子どもたちは非常にいきいきと取り組んでおり、大人たちがしっかりとサポートすれば子どもたちも大きく成長してくれるということを実感している。
議長	<ul style="list-style-type: none"> 学習補助については、来年度に向けて予算も勘案しながら、その効果をしっかりと検証、分析し、今後も進めてほしい。
五十嵐子ども未来課長	<ul style="list-style-type: none"> 学校ごとに様々な工夫を行い、特色ある取り組みをされているが、その中で、全校が統一的に取り組めるものはあるか。 過去に2学期制の導入が各学校長の判断に委ねられ、導入した学校が数校あったものの、他校とのスケジュールが合わず戻さざる

	<p>を得なくなった経緯がある。近隣市では、教育委員会の主導により全校2学期制が継続されているところもあるが、学力向上についても教育委員会が強いリーダーシップで取り組んでいく必要があると考える。</p>
<p>教 育 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、学力向上推進委員会において取り組み状況の共有を行い、その成果をまとめたものの一つが授業改善の視点をまとめた「うきしろスタンダード」である。 ・今年度から、多くの先生方が参加する教育研修大会終了後に、これまでの講義形式に代わって、良い取り組みや改善点などを学び合う授業研究会を開催し、改善に取り組んでいるところである。 ・今後も、先生方を対象に、参加者全員で教育現場における問題点を把握してその解決策を考えるような、演習型・参加型研修を充実させていきたいと考えている。
<p>上野子ども未来推進幹</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を見る限り、授業や補習の増加を行うなど、やるべきことは明らかであると考えている。 ・学童保育室を利用される保護者によっては、「もう少し学校にいさせてもらいたい」という意見も聞く。こうした意見を取り入れて、授業時間を延長することを検討してもよいのではないか。 ・以前学校教育課と相談し、宿題に追加するプリントなどは用意できるとのことだったので、学校教育課の協力をいただきながら、学童保育室で配布するなどの対応をしていきたい。
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の会議では、学童保育室での取り組み状況も併せて報告してもらいたい。
<p>菅原企画政策課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・以前に比べて、子どもたちの宿題数が減っているように感じられる。また、クラスによっても宿題の量に差があるように感じている。 ・学力向上を推進するにあたっては、量をこなしたり難しい問題に取り組ませたりと、子どもたちに多少の負荷をかけることも検討するべきでないか。
<p>畔上総合政策部長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1を見ると、学力が改善している学年にある程度の傾向がみられるが、どのように分析し、課題をどのように認識しているか。 ・また、中学校2年生、3年生の学力状況について県平均を下回っているが、県平均を上回っている他市町村の取り組みについてはどのように把握しているか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、パワーアップサポーターなどの補助教員が子どもたちを支援してきたことが、学力が改善した一つの要因であるものと認識している。中学校においても同程度のサポートが可能となれば、生徒に対するあとひと押しの支援、改善が可能になるものと考えている。 ・他市町村では、県からの人的サポートを活用し先生方を支援することにより、学力向上につながった事例がある。
諸貫教育総務課長	<ul style="list-style-type: none"> ・低所得者世帯を対象とした学習補助の事例が挙げられたが、そうした中で、学力の底上げの観点から、子ども食堂と連携し、その場を活用した学習支援策を今後検討していく必要があるのではないかと。
今成学校教育部副参事	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での授業に対し、子どもたちにいかに興味を持ってもらえるかは非常に重要であり、自己肯定感を高められるようなプログラムの導入を検討する必要があるのではないかと感じている。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・学力に対する、学校ごとの傾向分析やその原因究明をしっかりと行ってほしい。何に問題があって、どんな対策をすれば子どもたちにとって最も良いのか、検証と分析によって現状を正していかなければならない。その検証に基づき良い点と悪い点を洗い出した上で、どんな取り組みが改善につながっていくかということを経験し、実践することを徹底してもらいたい。 ・現在の市の分析では、県の平均点を100として学力調査の結果を示しているが、市町村によっては全国の平均点及び県の平均点と、市の平均点とを比較しているところもある。その方が一目で平均点以上か、以下かということが判別できるため大変わかりやすい。数字の比較方法について再度検討してもらいたい。 ・他市町村でも、学力テストの結果が県平均を大きく上回っている学校もあれば、そうでない学校もある。重要なことは、良かった要因と悪かった要因をきちんと把握して、学校に共有してもらうことであり、改善策を明示してあげることである。適切な対策を取ることができれば、必ず向上する余地はあるものと考えている。 ・不登校児童・生徒数の改善やいじめ件数の改善といった、学級環境改善についても学力向上に結びつくものである。特に、現状の不登校児童・生徒割合については、全国平均を超えており、先生の負担、学校の負担を軽減し、本来の授業の充実にあてることで学力の向上につながる。教育からの視点だけではなく、様々な立場に立って、学校への働きかけや支援策を検討していかなければならない。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村によっては、学校名を伏せた上で学校別の学力テストの得点を公表しているところもある。こうしたことにより、先生方への問題提起、意識づけにもなるものと考えており、行田市でも公表の有無、方法も含めて今後検討してもらいたい。 ・近隣市では学力向上の成果が出ているところもある。こうした市の取り組みについて、福祉や学童等の状況も含めた総合的な見地から状況を把握しているか。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・成果の挙がっている近隣市では、教育委員会を中心に、各学校に対してしっかりとしたサポートや強い働きかけをしていると聞いている。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで以上に踏み込んで、各学校に対し働きかけを行っていくことも一つの方策ではないか。目指すべき目標は十分に達成可能なものであり、先生方にもその目標に向かう意識や積極的な取り組みを促していてもよいのではないかと考えている。 ・他の委員の意見も伺いたいかどうか。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学力テストの結果公表については、行田市でも検討してもよいのではないかと考える。各先生が、自身の学級の立ち位置も知ることができ、今後の改善策を考えることにもつながる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の先生は、自分の学級がどの程度の位置にいるのかを把握できるのか。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の先生が順位を把握できるのであれば、公表を検討しても良いのではないかと。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・結果公表については、学力向上に結びついている市町村の情報も集め、行田市としての対応を検討してほしい。 ・特に成績が上位の市町村については、公表することで先生の自信ややる気にもつながっているのではないかと考えられる。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、議事の（２）「学校再編成について」、事務局から説明をお願いする。

＜資料 3 により説明＞

議 長	・ただいま事務局から説明があったが、ご意見やご質問があればお願いします。
岸田委員	・再編成対象校同士の交流を進めるにあたっては、子どもたちの移動手段について配慮が必要である。
事務局	・スクールバスとタクシーを利用することを想定し、本年度から予算を確保しており、継続して実施できるよう配慮する。
大久保委員	・保護者の皆さんから、中央小学校と星宮小学校との合同で行われた陸上教室の指導内容がとても良かったという意見を聞いた。また、中央小学校の保護者からは、星宮小学校の児童が非常に少なく驚いたという意見も聞き、再編成対象校同士の相互理解を深めるという点について、効果があったのではないかと感じた。
鹿山委員	・学校同士の交流事業を行うにあたっては、学校対抗というものではなく、お互いが打ち解け合えるような場としてほしい。
事務局	・交流事業については、一緒に何かを行うということを重視して事業を実施しているところである。
議 長	・学期一回程度の交流事業では、数が少なく十分な交流が図られないのではないかと感じている。カリキュラムや学校同士の調整もあると思うが、交流回数を増やす方向で工夫ができないか検討してもらいたい。 ・また、義務教育学校と小中一貫校それぞれのメリットやデメリット等の違いをしっかりと説明し、地元の皆さんが納得できる形で再編成を進めてほしい。
事務局	・交流事業は今後も継続して取り組んでいくことから、現行のカリキュラムなども考慮しながら、回数を増やすことを検討していきたい。
議 長	・次に、議事の（３）「その他」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	・次回の総合教育会議は、１１月に開催を予定している。
議 長	・その他、教育委員の皆様から何かあればお願いします。

<特になし>

議 長

- ・それでは、これにて議事を終了する。教育委員の皆様には、スムーズな議事進行にご協力賜り、ありがとうございました。
- ・これをもって議長の職を解かせていただき、事務局に進行をお返しする。

司 会

- ・以上をもって、令和元年度第2回行田市総合教育会議を閉会とする。

<閉 会>